

平成27年度 社会福祉法人よしだ福社会 事業報告書

I 平成27年度事業報告総括

平成27年度は「ケアポートよしだの近未来像を検討する委員会」を開催し、理事、評議員、学識経験者、障がい、福祉各関係者の方々に加え、行政、日本財団からもオブザーバーとして参加していただき、多方面より検討を頂き報告書がまとまりました。この報告書をもとに、よしだ福社会の今後3年間の中期目標を作成しております。

中期計画に上がっている看護と介護の充実については、とちのみの事業について、4月1日をもって小規模多機能型居宅介護を廃止し、新たに看護の機能を加えた「看護小規模多機能型居宅介護事業」として事業を開始し、住み慣れた地域で暮らし続ける地域包括ケアの実現に向けた取り組みを始めております。

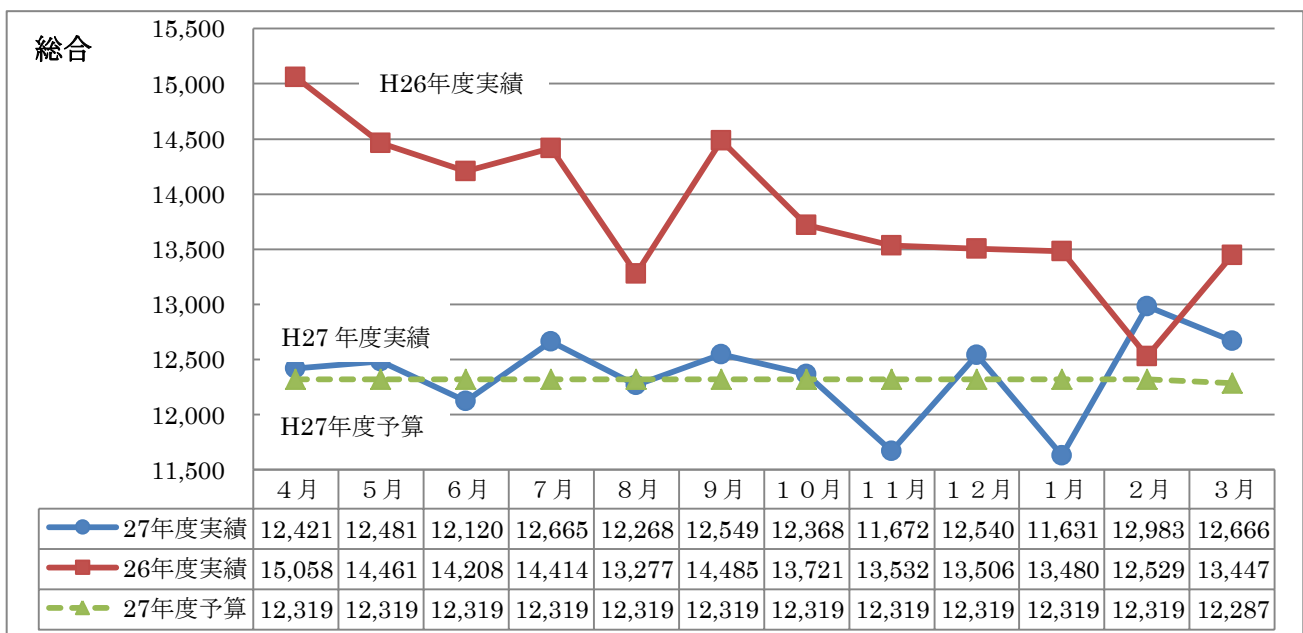
事業経営・労務管理については、事業仕分けを行うとともに、管理監督者の配置、組織管理体制の変更、産業医と衛生管理者の配置、衛生管理規程の改定、衛生活動計画の策定、ストレスチェック規程の策定、及び職員就業規則、嘱託職員就業規則、パートタイム職員就業規則、給与規程、組織管理規程等の改正を行ない、事業経営環境の改善を図っております。

また、ケアポート庄川、ケアポートみまき、日本財団との連携事業については、平成27年度はスリーポート会議として意見交換を重ね、今後に向けてのビジョンを作成するとともに、「スリーポートゆめ・ひと・つながり塾」として、現代の課題に対応した新たなケアポートモデルの策定・発信を行うというフレームで、今後の具体的な事業計画の策定段階に入っています。

II 平成27年度の事業実施状況

1. 介護保険事業

介護保険事業等収入実績（単位：千円）



平成27年度介護報酬改定と、介護福祉施設の80床の増床、サービス付き高齢者住宅等の整備により、よしだ福社会は大きな打撃を受けました。

平成26年度の平均と平成27年度の平均を比較してみると、

- 訪問介護で利用回数の平均が 25.2%減、介護報酬の平均が18.4%減
 - 通所介護で利用日数の平均が 13.5%減、介護報酬の平均が23.7%減
 - ふかのの里で利用者数の平均が 4.6%減、介護報酬の平均が10.1%減
 - とちのみで利用者数の平均が 1.4%減、介護報酬の平均が 7.6%減
- と、利用者の減少、それに伴う介護報酬収入の減少が顕著となっています。

2. 地域共生型福祉推進事業

<地域の他組織との連携、協働>

- 平成26年度は、いきいきサロンとの共同開催を行い、小規模多機能型居宅介護事業所ふかのの里が行い、出向くだけではなく、来ていただくことも実現しました。平成27年度は、田井地区振興協議会福祉部会、雲南市社会福祉協議会吉田支所と連携しながら、田井地区認知症支援事業「徘徊しても大丈夫！そんなご近所・地域づくりプロジェクト」に取り組んでいます。今後も自治会、小地区単位での認知症サポーター養成講座の開催等を通して、地域づくりの一翼を担っていく予定です。
- とちのみが中心になって、家族に向けた介護勉強会を4回開催し、地域に対する社会貢献活動として位置づけています。
- 介護保険外の訪問介護サービスと配食サービスを継続しており、今後は平成29年より開始される総合事業につなげていく予定です。

<リフレッシュセンター事業>

- 健康運動指導士の派遣による体操教室は、すべてのサロンより派遣依頼があり、運動意識と実践に向けた普及啓発を行っています。
- ケアポートよしだを利用した介護予防は、送迎付きで自主グループを積極的に受け入れました。デマンド型バス利用は適さず、よしだ福祉会の車を手配して対応しています。
- 「放課後の子供の居場所」の代わりとして、ケアポートを利用した子どものプール教室を身体教育医学研究所うんなんの“あそびの学校”と共同で実施しています。

3. 魅力ある職場づくり事業

- 職場の活性化、人材育成の取り組みについては、今年度も全職員対象に職員満足度調査（アンケート調査）を実施し、昨年度との比較から分析を行いました。

主な事項としては、

「仕事にやりがいを感じる」と回答した職員が20%から40%にアップ

「自分の適性や関心、能力からみて現仕事が自分に向いている」と思う職員が30%から75%にアップ

「自由に意見や提案ができるなど、皆が協力し合う雰囲気がある」と思う職員が44%から62%にアップ

反面、「必要な情報が確実に伝えられている」と思う職員が60%から37%にダウン、など職場内での情報伝達方法などを見直す等の改善が必要な項目も見られました。

- 人材育成の取り組みとしての OJT 及び OFF-JT については、中途入社職員に対してもエルダー制度で新人職員指導サポートを行っています。
- 資格取得支援については、准看護師養成校に通う職員の修業が終了し、資格取得し現場で仕事をしています。

4. 3つのケアポートとの連携事業

ケアポート庄川、ケアポートみまき、日本財団との連携事業については、平成27年度はスリーポート会議として意見交換を重ね、今後に向けてのビジョンを作成するとともに、「スリーポートゆめ・ひと・つながり塾」として、現代の課題に対応した新たなケアポートモデルの策定・発信を行うというフレームで、今後の具体的な事業計画の策定段階に入っています。

5. 各委員会の取り組み

■ 質の向上を目指した、法人独自の委員会

① 研修委員会

年間研修計画を作成し、救命講習会、交通安全研修会、職員満足度調査等を行いました。

② 感染症対策委員会

職員、利用者から数名のインフルエンザ発症はありましたが、感染は広がらず、終息しました。

感染予防対策研修の実施、年2回ポスターを作成掲示し、手洗いやうがいなど感染予防の徹底を啓発、マニュアルの見直し等を行っています。

③ 調査委員会

介護保険サービスご利用の方へ意向調査を行いました。

各部署での資質向上が図れるよう、同じ内容で実施し、各事業所まとめた結果は、利用者に報告するとともにホームページで公表しています。

④ 節約委員会

職員にも節約方法のアイデアをつのり、エアコン管理、車両管理など周知を図りました。また、LEDの設置など施設改修と合わせて計画的に取り組みました。

■ 主任以上で構成される委員会（運営会議で実施）

① 衛生委員会

② 苦情解決委員会

③ リスク管理委員会

④ 身体拘束ゼロ対策委員会

年間各12回開催。

運営会議の前に各事業所が職員会議で検討した内容を報告したうえで意見交換を行い、会議で検討することで、情報の共有と再発防止、質の向上に取り組みました。

6. 設備投資、修繕の状況

日本財団福祉車両助成事業により、とちのみへワゴン車1台（ホンダステップワゴン）を導入

しました。

7. ボランティア、視察、交流の状況

日 時	団体名・活動内容	参加者数
5月13日	窓ふきボランティア 吉田地区民生児童委員協議会	12名
6月19日	認知症家族の会 見学、交流、通所体験	9名
6月19日	田井地区合同サロン 体操、お茶会	29名
6月24日	視察 海士町社協	1名
6月25日	第6回あじさいコンサート 田井地区振興協議会 学び合い部会	
6月27日	家族勉強会 王子ネピア（株）ボランティア講師3名、マルタカ2名	20名
7月11日	エアコン等の清掃点検ボランティア 島根電工	13名
7月14日	卵の贈呈 島根県養鶏協会	
8月10日	環境美化ボランティア（職員）	20名
10月22日	小中合同くり〜ん作戦（中庭清掃） 吉田中学校、田井・吉田小学校 生徒・教諭	7名
1月7日	窓ふきボランティア（職員）	9名
1月～2月	掃除、洗い物、おやつ作りボランティア	1名（3回）
3月8日	ウエス作り ほがらか	6名
5月	畑、草刈りボランティア（とちのみ）	2名
5月、2月	話し相手ボランティア（とちのみ）	各1名
6月14日	鯛の調理ボランティア（とちのみ）	1名
7月22日	松江犬猫の会アニマルセラピーボランティア（とちのみ）	4名他
10月3日	とちのみ祭りボランティア（とちのみ） 運営推進委員、家族他	10名
12月10日	縫物ボランティア（とちのみ）	2名
1月14日	紙芝居他（とちのみ） 虹の会	6名
2月1日	雪かき、窓拭き（とちのみ） 吉田中学校生徒	12名
3月5日	そば打ちボランティア（とちのみ） 有志	5名
通年8回	歌、話し相手ボランティア（とちのみ） スイングエコー	延24名

Ⅲ 各事業の状況報告

<事業所名：法人本部>

(総括)

- 平成27年度は「ケアポートよしだの近未来像を検討する委員会」を開催し、理事、評議員、学識経験者、障がい、福祉各関係者の方々に加え、行政、日本財団からもオブザーバーとして参加していただき、多方面より検討を頂き報告書がまとまりました。この報告書をもとに、よしだ福祉会の今後3年間の中期計画を作成しました。
- 中期計画に上がっている看護と介護の充実については、とちのみの事業について、4月1日をもって小規模多機能型居宅介護を廃止し、新たに看護の機能を加えた「看護小規模多機能型居宅介護事業」として事業を開始し、住み慣れた地域で暮らし続ける地域包括ケアの実現に向けた取り組みを始めております。
- 経営改善を図るため事業仕分けを行うとともに、管理監督者の配置、組織管理体制の変更、産業医と衛生管理者の配置、衛生管理規程の改定、衛生活動計画の策定、ストレスチェック規程の策定、及び職員就業規則、嘱託職員就業規則、パートタイム職員就業規則、給与規程、組織管理規程等の改正を行ない、事業経営環境の改善を図っています。
- 新会計基準を導入、会計処理の整理及び、経理規程の見直しを行い実施しています。
- ケアポートよしだ施設改修計画（10カ年）に基づき、平成28年度大規模修繕の準備を進めました。
- 日本財団福祉車両助成事業により、とちのみへワゴン車1台（ホンダステップワゴン）を導入しました。
- 役職員研修会として、島根県立松江養護学校乃木校舎サービスショップへの視察研修を企画・実施し、今後の障害者雇用への理解と就労支援事業への参考としました。
- ホームページ及び広報「水辺」により情報発信を行いました。
- 監事研修会等へ参加し、経営管理体制の充実を図りました。

理事会、評議員会の開催状況

会議	開催日	主な内容
理事会	H27. 5. 26	平成26年度事業報告、会計決算について 他
	H27. 10. 30	新会計基準への移行に伴う調整、補正予算について 他
	H27. 12. 25	ケアポートよしだの近未来像を検討する委員会について 他
	H28. 3. 25	平成27年度事業計画、予算、就業規則の改定について 他
	H28. 3. 30	理事長の選任について 他
評議員会	H27. 5. 26	平成26年度事業報告、会計決算について 他
	H27. 10. 30	新会計基準への移行に伴う調整、補正予算について 他
	H27. 12. 25	ケアポートよしだの近未来像を検討する委員会について 他
	H28. 3. 25	平成27年度事業計画、予算、就業規則の改定について 他

<事業名： ケアポートよしだ 地域密着型通所介護事業 >

(総括)

ケアプランに基づき、通所介護計画書を随時作成・見直し・修正するとともに、内容も本人や家族と面接し、意向も聞きながら作成しています。また、随時本人と話し、したいことや希望などを聞き、可能な限り実現に向け検討・支援を行っています。

毎日の反省会（ケースカンファレンス）にて、個々のケアや対応方法を検討するとともに、日々変動するケアについて、連絡ノートの活用だけでなく朝や夕のカンファレンス時に全体報告を都度行い統一を図りました。

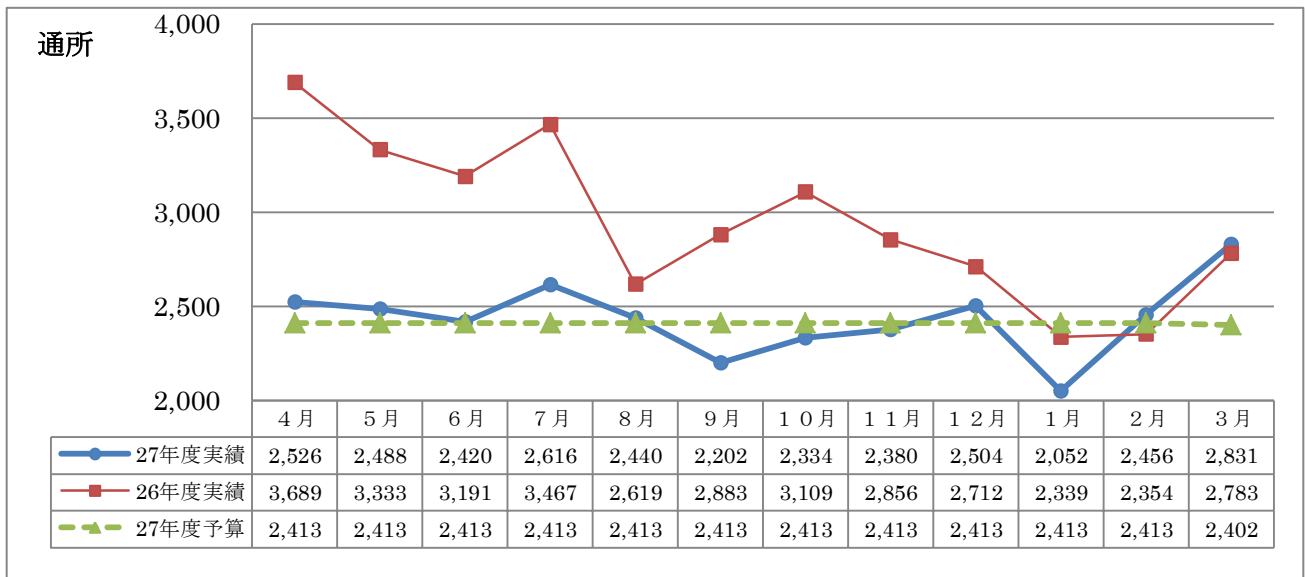
残存機能を生かして身体を動かせるレクリエーションを日々検討し実施しています。レクリエーション、行事なども利用者の希望を聞き、できる限りそれに沿う形で企画しています。

必要時は担当ケアマネへ報告し対応内容を検討するとともに、検討した内容をケアへ繋げ、必要時にはケアマネ・医療機関などとも連携し取り組んでいます。

身体拘束チェック（主にスピーチロック）を開始し、毎月の職員会議にてチェックするとともに接遇について話をし、意識統一に取り組んでいます。まだ完全にスピーチロック等が無くなったわけではないが、職員個々に意識付き、各々が気を付けるような姿勢もみられています。

反省会や職員会議にて皆が気軽に意見を出し合えるよう、雰囲気作りに配慮するとともに、チームワーク～皆は一人の為、一人は皆の為～を意識付け、協力しながら取り組めるよう日々検討しています。

ヒヤリハットや事故が発生したら、その日の反省会にて検討・協議・インシデントレポートを作成し再発防止に努めています。また発生して暫くは（1週間ぐらい）朝・夕の全体連絡時に口頭で報告し二重三重に周知を図っています。

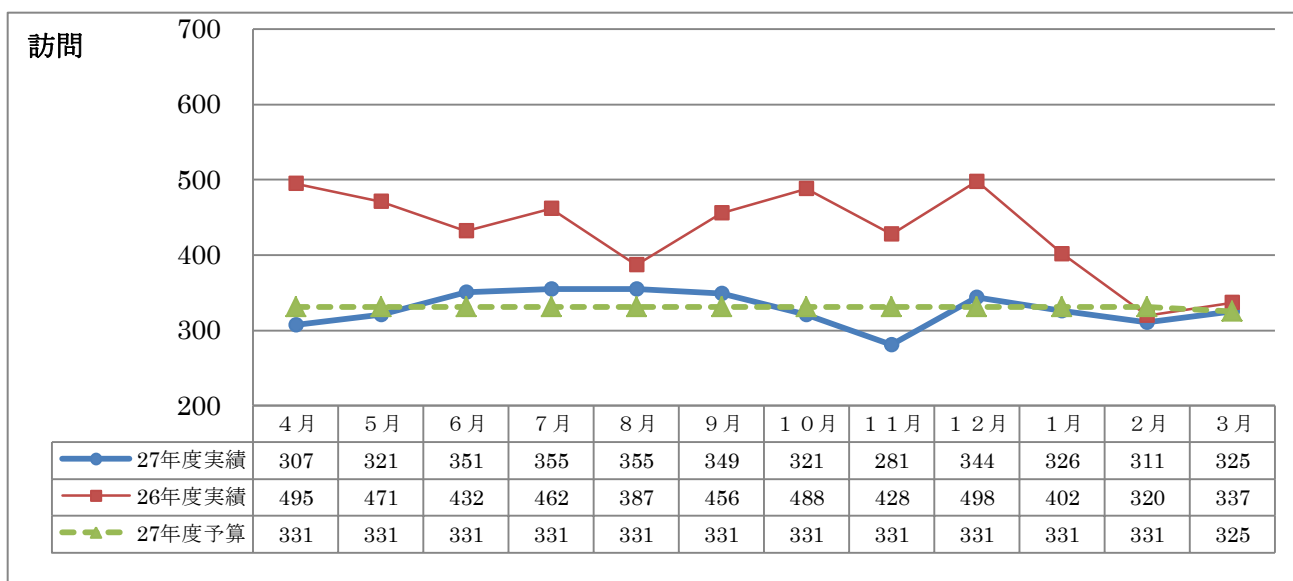


<事業名： ケアポートよしだ 基準該当訪問介護事業 >

(総括)

平成27年度も新規利用申し込みが少なく、非常に厳しい状況でした。

「住み慣れた地域で暮し続けたい」との利用者の想いを支え、満足していただけるサービス提供に努め、介護保険だけでは補いきれない生活の不自由さに対し、介護保険外の訪問介護サービスと休止していた障がい福祉サービスを立ち上げました。周知不足で利用はありませんでしたが、今後の総合事業に先駆ける形になりました。



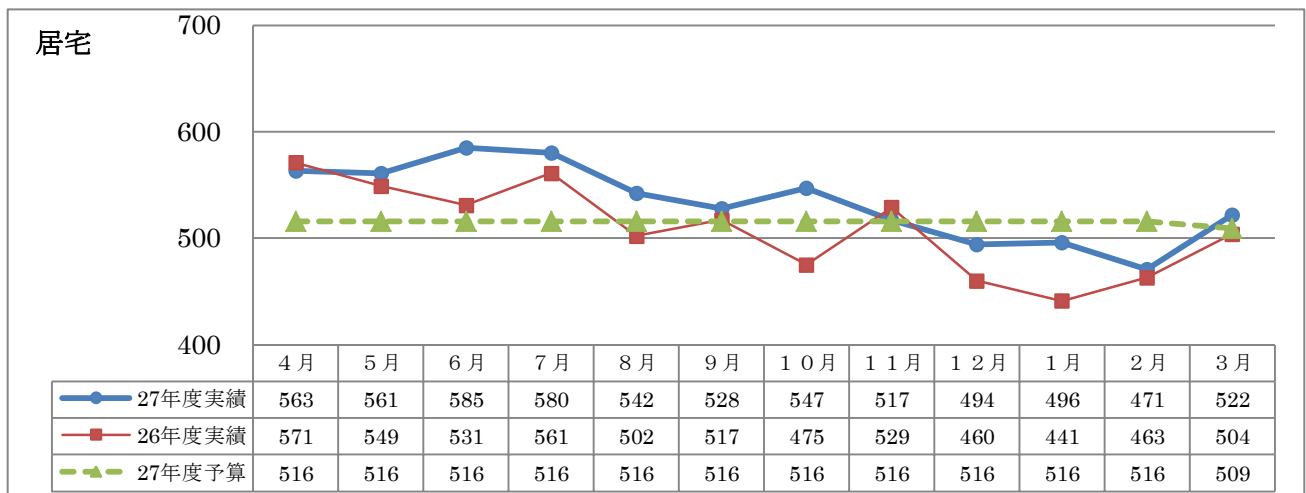
<事業所名： ケアプランよしだ 居宅介護支援事業 >

(総括)

居宅介護支援事業所では、在宅で生活をされている方のケアプランを作成し、必要に応じてサービスの見直しを行いながら継続した介護ができるよう支援しています。

平成27年度は介護保険制度の改正があり、介護報酬の改定や一定以上の所得者は利用者負担割合が変更となるなど大幅な改定となりました。施設入所については介護老人福祉施設の入所基準が変わり、新規入所は原則として要介護3以上の方が対象となりました。当事業所ではケアプラン作成している方の約8割が要介護2までの軽度の認定者であり、施設入所を希望されてもすぐには入所ができない状況です。利用者の能力、家族の介護力、生活環境を課題分析しながら画一的なケアマネジメントにならないよう、複数の在宅サービスを組み合わせるによりよい在宅生活ができるよう支援しています。

実績については多少の変動はあるものの、一定した給付数を維持することができました。



<事業名： ケアポートよしだ 生活福祉センター事業 >

(総括)

平成 27 年度の利用者数が高齢者生活福祉センターは 14 名で月平均利用者 7.25 名、有料老人ホームでは 7 名で月平均利用者 2.7 名でした。毎年の傾向ですが夏場の利用が少ない状況にあります。

生活福祉センターのサービス内容として「居宅において生活するのに不安がある方に一定期間住居を提供する」、「相談、助言、緊急時の対応」とありますが、利用者の多くが日常生活に何かしらの介護を要する状態にあり、小規模、訪問介護サービス等を受けられ安心した住まいが提供できませんでした。

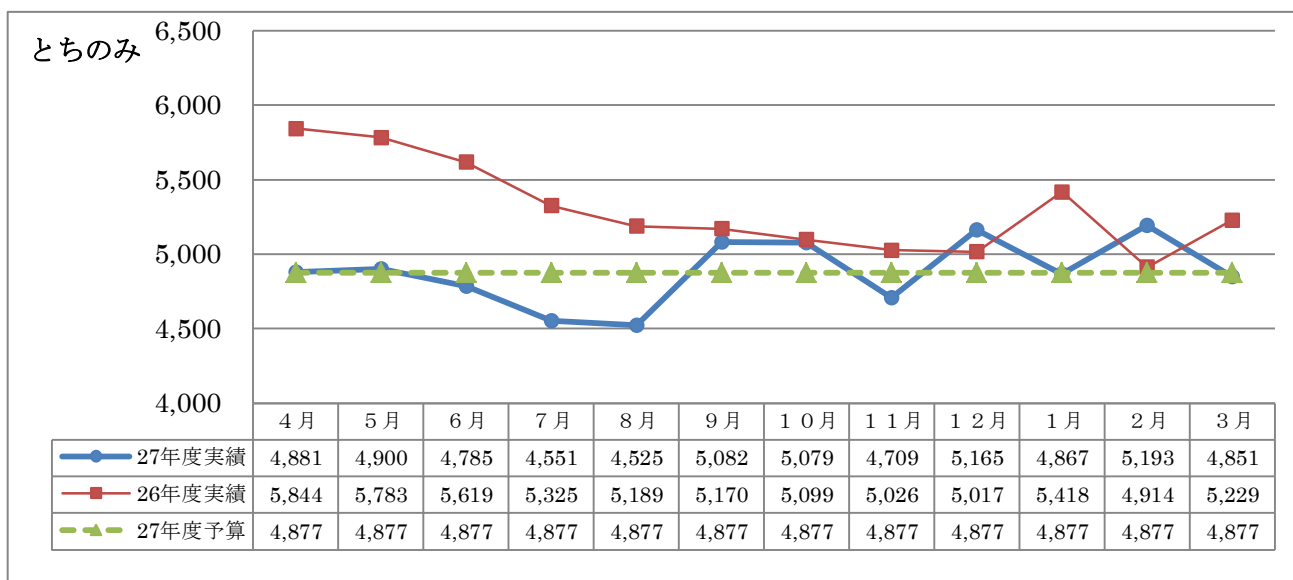
<事業名： 小規模多機能型居宅介護事業 とちのみ >

(総括)

平成 27 年度は、4 月には 21 人まで減っていた登録者数も、24~25 人まで回復しました。しかし、冬場に入院が多く、また、重度者は少なく経営的には苦しい状況が続いています。

今年度は『家族支援』として、勉強会を計画し職員も一緒に参加しました。参加人数は少なかったですが、家族も今必要としていることを選んで参加できたように思います。

今後は、『看護小規模多機能』として、医療ニーズのある方への支援も増えていきます。また、看取りの希望もあり、職員も更なる知識と技術の向上に努めて行きたいと思えます。

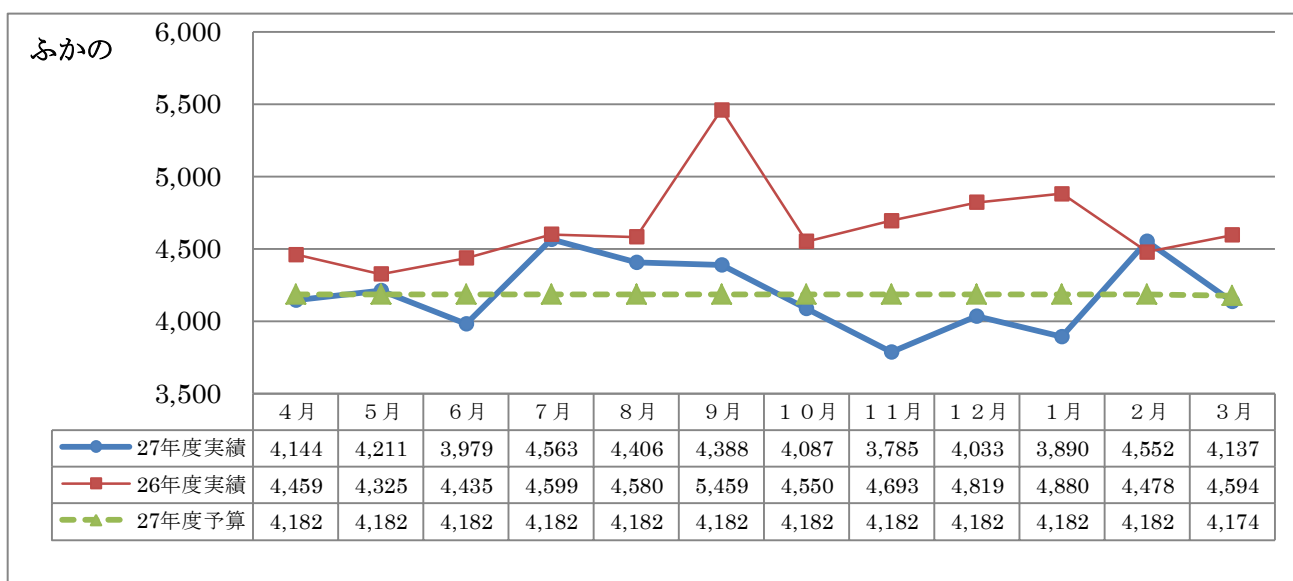


<事業所名： 小規模多機能型居宅介護事業 ふかのの里 >

(総括)

おおむね月20人～23人利用登録でした。平均介護度2、とちのみより高い割合で軽度の方がご利用になっています。その背景には、要介護1までの方が入所できる高齢者生活福祉センターと合わせてのご利用が冬期間5名、有料老人ホームさくらんぼ2名のご利用が考えられます。

また、初めて看取りを希望され、主治医の先生のご理解とご協力で穏やかに送ることができました。個別ケアを推進する目標に対しては、今年度をスタートとし、様々な取り組みが今後継続していくことが重要と考えています。地域に積極的に出かけることで地域とのつながりがより深くなり、普段の生活の中で地域の皆さんに気軽に声をかけてもらえるような事業所を目指すために、昔馴染みの顔が見れる機会を提供し、利用者が日常的に地域との交流が出来るよう計画しました。ケアポートリフレッシュセンターが窓口となり地域と連携を図りながら、ふかのの里だけではできなかった交流も実施することができました。



<事業所名：リフレッシュセンター事業／栄養・配食 >

(総括)

食事をとることは、高齢者にとって生活の中で大きな楽しみになっています。そのため、おいしい食事であることはもちろんですが、季節の食材や昔ながらのおやつなどを積極的に取り入れてきました。また、可能な限り、疾患や嗜好など個別食に対応し、食べたい思いに応えてきました。

今後は、各部署と連携し、食事内容の見直しや情報交換を行い、栄養状態や身体状況に適した食事の提供に努めていきます。

【配食サービス年間実施状況】

年間実人数		15人
年間延べ件数		1,898人
週当たり利用回数別実人数	週1回利用	1人
	週2回	2人
	週3回	6人
	週4回以上	6人

<事業所名：リフレッシュセンター事業／温泉健康プール >

(総括)

リフレッシュセンターでは住民が自ら健康・体力づくり活動に取り組み、その活動を通じた交流を進めることで、誰もが「住み慣れた地域でいつまでも元気に、自分らしく尊厳を保ちながら暮らしていくこと」を積極的にサポートすることを目標にかかげ事業に取り組んでいます。また、地域に住む誰もが参加することができ、人と人とが精神的な交流をし、その中で主体的に交わることにより、自分を活かしながら過ごせる場所として、『自分』・『人』・『社会』との調和を掲げ、心と身体の健康づくりに寄与するサービスを提供することを目指し事業に取り組んでいます。中でも平成27年度は、地域自主組織との連携を図り、ケアポートよしだを会場とした田井地区合同いきいきサロンを開催し、地域住民の健康増進・介護予防の取り組みへの普及・啓発に加え、交流・情報交換の場を提供しました。さらに昨年度より開設している小学生を対象とした「わんぱく広場」を継続し、子ども達がからだを動かし安心して遊べる環境を提供しました。

平成27年度リフレッシュセンター利用者の総数は4,059名と前年対比で、3.57ポイント減となりました。要因として、6月中旬に発生した温泉貯水槽およびプール・浴室への配管内泥水の混入により、臨時休業となったことにより例年一般客の利用が増加するところに伸び悩みが見られた。さらには昨年度、田井小学校の夏休みプール解放が無かったために夏休み期間中の児童利用が増加していた部分が、今年度についてはプール実施につき利用が全く無かったことも大きく実績に悪化に関与していると推察できる。詳しく見ると、一般利用は市内からの利用客減少（前年比マイナス15ポイント）に対して、市外からの利用客は増加（前年比49.5ポイント）しており、昨年度開設したホームページより情報をキャッチして利用する新規利用者の獲得につながったと考えられます。

平成21年度より受託している雲南市特定高齢者介護予防事業では、6か月間で延べ321名に利用いただきました。全参加者に運動器の機能向上が認められ、地域運動指導員をはじめ、身体教育医学研究所うなんや地域包括支援センターとの連携により円滑な事業運営ができたと考えます。

同様に元気な高齢者の方を対象とした総合型介護予防事業(包括より受託)「きらり☆エイジング75」は、全5回シリーズの教室を今年度は加茂・大東の2地区で開催し延べ160名に利用いただきました。元気なうちから積極的に介護予防に取り組む重要性とその方法を深く理解していただき、参加者の満足度も高く、今後についても意欲的な感想を多くいただいております。

また、各種運動教室についても昨年度に引き続きいずれの教室でも利用者は増加しており、スポーツ・運動に親しむ市民(主に中高年を中心)の育成や交流の場の創出および施設の活性化・有効活用に貢献できたと考え、今後も引き続きニーズに応じた多様なプログラムの提供に努めます。

施設利用者 (リフレッシュセンター)

平成27年度																							
月	一般利用								居住	職員	包括受託事業				健推受託事業				福祉会独自事業			合計	累計
	市内				市外						一般	特高	A	B	C	D	子ども	成人	巡回型				
	大人	小人	幼児	計	大人	小人	幼児	計															
4	63	24	3	90	81	16	11	108	8	8	—	—	30	3	—	22	8	33	—	310			
5	78	25	0	103	96	29	0	125	4	14	—	—	28	4	—	20	15	31	—	344	654		
6	64	19	2	85	49	23	1	73	0	15	45	25	15	14	—	11	30	85	—	398	1,052		
7	127	106	29	262	114	94	16	224	0	14	88	60	32	35	—	8	16	67	—	806	1,858		
8	191	163	54	408	148	124	51	323	0	16	—	49	27	24	—	3	18	54	—	922	2,780		
9	83	21	4	108	54	12	10	76	0	10	—	56	37	22	—	5	16	50	18	398	3,178		
10	72	6	0	78	76	3	2	81	0	17	27	54	37	27	—	13	16	37	—	387	3,565		
11	73	6	1	80	73	2	5	80	0	16	—	54	35	10	—	11	16	52	17	371	3,936		
12	71	3	0	74	59	7	0	66	2	8	—	23	20	17	—	8	17	58	12	305	4,241		
1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	18	12	3	13	5	51	4,292		
2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	46	15	25	38	24	148	4,440		
3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	29	5	9	38	29	110	4,550		
計	822	373	93	1,288	750	310	96	1,156	14	118	160	321	261	156	93	133	189	556	105	4,550	(人)		